

測定する能力	
漢字・語彙力	論理的言語力
論理的読解力	論理的思考力
論理的表現力	

《問題Ⅰ》漢字・語彙力

(40点)

●解答

- 第一問
- (1) 干渉・緩衝 (2) 平衡・閉口
(3) 脅威・驚異 (4) 硬貨・高架
- 第二問
- (1) 真摯 (2) 粗相
(3) 錯綜 (4) 傍観

第三問

- (1) 朝令暮改・工
(2) 枝葉末節・ア

第四問

- (1) 店員が消費期限の過ぎた弁当を廃棄する。
(2) 昨日見た映画のラストシーンは秀逸だった。
(3) 真夜中の住宅街は静寂に包まれた。
(4) 私のチームの敗色が濃厚だ。

■配点

- 第一問 各2点(完全解答ではありません)
第二問 各2点
第三問 各4点(四字熟語・意味 各2点)
第四問 各4点(並べかえ・漢字 各2点)

◆解説

- 第一問 同音異義語の問題。文脈から意味を考え、適切な漢字に直します。
第二問 意味から二字熟語を作成します。単漢字の意味を考え、組み合わせを考えましょう。
第三問 文脈から適当な四字熟語を考えます。正しい意味と使い方を理解しましょう。
第四問 まず助詞を自立語にくっつけて、文節を作ります。

- (1) 「店員が」↓「廃棄する」が主語と述

語の関係。あとは、「消費期限の」↓「過ぎた」↓「弁当を」↓「廃棄する」とつながります。

- (2) 「ラストシーンは」↓「秀逸だった」が主語と述語の関係。主語を飾る言葉として、「昨日」↓「見た」↓「映画の」↓「ラストシーンは」とつながります。
(3) 「住宅街は」↓「包まれた」が主語と述語の関係。「真夜中の」↓「住宅街は」↓「包まれた」、「静寂に」↓「包まれた」とつながります。
(4) 「敗色が」↓「濃厚だ」が主語と述語の関係。主語を飾る言葉として、「私の」↓「チームの」↓「敗色が」とつながります。

《問題Ⅱ》論理的言語力

(40点)

●解答

- 第一問 (1) エ (2) ウ

第二問

- 問一 文字による造形の一歩手前の瞑想に含まれる無限
問二 (1) c・オ (2) a・イ
(3) e・ア (4) b・エ

■配点

- 第一問 各6点
第二問 問一 12点
問二 各4点(完全解答)

◆解説

- 第一問 (1) 「教育熱心な」↓「母が」↓「買った」きた、「書店で」↓「買ったきた」、「新たに」↓「買ったきた」、「問題集を」↓「買ってきた」とつながります。
(2) 「スマートフォンの」↓「登場は」↓「変えた」、「人々の」↓「生活を」↓「変えた」、「大きく」↓「変えた」とつながり

ます。

第二問

問一

「この可能性」とは直前の「無限の可能性」を指します。「無限の可能性」がどういうことかというところ、「その一歩手前の瞑想に含まれる無限の可能性」。さらに「その」は「文字による造形」を指しています。

問二

- (1) 空所直前に「潔癖、独占癖が、私にはある」とあり、空所直後にその具体例を述べているので例示の「例えば」。
(2) 空所直前の「最大の苦痛となる」は空所直後の理由なので、順接の「だから」。ただし、ここでは空所直後に「例えば」と続いており、結果の具体例が書かれていることに注意する。
(3) 空所の前後で話題を変えているので転換の「ところで」。
(4) 空所直前に「見たいもの聞きたいものが余りに多すぎる」とあり、空所直後で「遊惰な誘惑が多すぎる」と言い換えているので換言の「つまり」。

《問題Ⅲ》論理的読解力

(40点)

●解答

- 第一問 D ↓ C ↓ A ↓ E ↓ B

第二問

- (1) ウ (2) エ (3) ア (4) イ

第三問

- (a) エ (b) ウ (c) イ (d) ア

第四問

狩猟採集をする中で進化した人類の体は、長時間座り続ける現代の生活に合っていないから。

■配点

- 第一問 10点 第二問 各2点
第三問 各2点 第四問 14点

◆解説

第一問 冒頭の筆者が腰痛に見舞われた話を受けて、D「そんな身ゆえか」現代の生活がいかに人間の体に合っていないかを説く本に引き込まれたとつながります。Cの「そん

な狩猟採集時代」は、Dの「草原を走り回り」を指すので、D↓Cと続きます。そして、時間になぞらえて人類の進化の過程を示す流れの中で、コンピューターの前に長時間座る習慣がついたのはつい最近のことだと続くのだから、次はA。Aの「腰痛がはびこるわけである」が、Eの「本の筆者も腰痛に悩んだ人だ」につながります。最後に、残ったBがきますが、Bは冒頭の文を受けて最後の締めになっています。

第二問

- (1) 直前の、梅やスイセンの花を見つけたことを、狩猟採集時代の「狩り」になぞらえています。
- (2) 狩猟採集時代がどれほど長かったかを示すために、「人類史の流れ」を勤務時間になぞらえています。
- (3) 人類史の中で、農耕より後に起こったのは、「産業革命」。
- (4) 先祖たちが苦しんだような「飢えや病気」に、現代の人類はほとんど苦しめられることはなくなりました。

第三問

- (a) 歩いたり走ったりするためにあるのは、お尻の「筋肉」。
- (b) 狩猟採集時代の狩りの収穫と比べ、庭の花を見つけるのは、ささやかすぎる「収穫」。
- (c) 長い狩猟採集時代に人類がしていたのは、草原を走り回り「狩り」をすること。
- (d) 現代人の腰痛について述べた文章で、「筆者も」とあるので、「腰痛」に悩んだとわかります。

第四問

人類史のほとんどを占める狩猟採集時代において、人類は草原を走り回り、進化してきました。このため、長時間座り続ける現代の生活は、人間の体に合っていないものであり、人類史的にみるとずいぶん病的らしいと述べています。これを与えられた条件の中でまとめます。

《問題Ⅳ》 論理的思考力 (40点)

●解答

第一問

- (1) 地球の空気は多様な種類の気体の混合物だ。

- (2) 彼は情報工学の父と呼ばれる偉大な研究者だ。

第二問

コーヒー愛好家の中には、コーヒーに対して味や香りだけでなく、興奮状態に入り

洞察力を高める効果を求める人々がいる。

第三問

切支丹は神の愛を説くが、日本における愛という語は不義につらなるニュアンスが強かったから。

■配点

- 第一問 各8点(完全解答)
第二問 12点 第三問 12点

◆解説

第一問

- (1) 不要な語句は「酸素が」「含む」です。
- (2) 不要な語句は「コンピューターが」「母が」です。

第二問

最初と最後の文で主張がまとめられています。「前に述べた効果」とは第三段落の「興奮状態に入り洞察力を高める」効果を指すので、具体的に言いかえて書きましょう。

第三問

切支丹が何に対して苦勞したのかを補いましょう。これは「神の愛、キリシトの愛」を説くことに対してです。日本では「愛は不義につらなるニュアンスが強い」ため、切支丹は「神の愛」をどのように訳せばいいか苦心することになったのです。

《問題Ⅴ》 論理的表現力 (40点)

●解答例

第一問 イ・工

第二問

- (1) ア 買い物 イ 育児 ウ 家事

- エ 3 オ 2

(2) エ

第三問

資料2からは、育児にかける時間が増えていること、資料3からは、子どもの数は減少しているが、一人当たりの年間教育費は増加していることがわかる。このことから、一人の子どもに時間をかけて育て、十分な教育を受けさせようとする傾向にあると考えられる。

■配点

- 第一問 各3点
第二問 (1) 各2点 (2) 4点
第三問 20点

◆解説

第一問

ア 女性の家事の時間は減っているから、×。

ウ 育児の時間は増えているが、家事の時間は減っているから、×。

オ 男性の家事の時間はやや増えているから、×。

第二問

(1) ア 平成八年と二十八年を比べて、わずかに減っているのは「買い物」の時間。

イ 一時間以上増えているのは「育児」。

ウ 平成八年では「育児」より「家事」の時間の方が多いが、平成二十八年に逆転し、「育児」が「家事」を上回っています。

エ 平成八年は〇・三八時間であるのに対し、平成二十八年には一・二三時間になっているのだから、約三倍。

オ 平成二十八年のアメリカの夫の家事関連時間は三・二五時間だから、

日本の夫の家事関連時間(一・二三時間)との差は、約二時間。

(2) 妻の「家事」に費やす時間が減った理由として、ふさわしいものを選びます。

注意したいのは、「家事関連」の内訳として「家事」「介護・看護」「育児」「買い物」と分けられているので、ここでいう「家事」に買い物は含まれないということです。アとオは、買い物の時間が減った理由としてはあり得ますが、「家事」の時間が減った理由としては適切ではありません。イとウも時間の短縮と直接的な因果関係はありません。炊事、掃除、洗濯などの家事を効率化させ、時間を短縮させた理由としてふさわしいのは、エとなります。

第三問

資料2と3から読み取れることをもとに、字数条件内でまとめます。資料2からは、家事に比べ育児にかける時間が増えていること、資料3からは、子どもの数は減少しているのに、子ども一人当たりの年間教育費は増加傾向にあることが読み取れます。こうしたことから、一人の子どもに時間とお金をかけて育てる傾向にあることがわかります。